

(注)「コモロ連合月報」は、新聞報道等をまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にコモロ政府の公式見解と異なる内容が含まれる場合もあるため、予めご留意をお願いします。なお、各記事冒頭の日付は、報道された日付です。

コモロ連合月報（2026年8月）

《主な出来事》

【内政】

- 12日 (Al-Fajr) モハメド・アハメド・アスマニ内務・地方分権化・国土行政大臣と駐コモロ中国大使は、公共安全分野における二国間協力、平和と安定の維持に向けた共同の取組と、まもなく中国で開催される「第7回世界公共安全協力フォーラム」について協議した。

【外政】

- 3日 (Al-Fajr) 第6回中国・アフリカ・マラリア撲滅シンポジウムが開催され、コモロ当局、医療関係者及び中国人専門家8人が、マラリアの予防、監視及び感染拡大への対応強化について協議した。今次会合を通じ、中国とコモロの保健・科学分野での協力強化が図られた。
- 7日 (La Gazette) コモロ国際協力庁 (ACCI) とJICAが主催して、コモロ初の「コモロ・日本協力の日」を開催。1980年の協力開始以来、研修で、保健・漁業・廃棄物・ブルーエコノミーなど分野で、約300人を育成してきた。エル・マルーフ大学病院では「5S - KAIZEN」研修を開始したが、日 - コモロ - マダガスカルの三角協力の好例となっている。2027年以降も戦略対話を強化し、明確かつ現実的な優先課題を設定し、コモロ国民の利益を最大化する方針が確認された。
- 13日 (La Gazette) 7日から、コモロの視聴覚メディア関係者が、中国で開催されている視聴覚分野のデジタルトランスフォーメーションに関する21日間のセミナーに参加している。この機会を利用して、セミナーを通じて中国の経験やイノベーションについて学ぶ。

【社会】

- 31日 (Al-Fajr) コモロの6つの歴史的メディナ（イコニ、モロニ、イツァンドラ、ンツジニ、ムツァムドゥ、ドモニ）がユネスコ世界遺産に登録された。これらの都市はいずれも、珊瑚石造りの建築やモスク、迷路のような路地を特徴とし、アフリカ・アラブ・ペルシャ・アジアの文明が交差したインド洋交易の歴史を体現している。

1 内政

- 12日 (Al-Fajr) モハメド・アハメド・アスマニ内務・地方分権化・国土行政大臣と駐コモロ中国大使は、公共安全分野における二国間協力、平和と安定の維持に向けた共同の取組と、まもなく中国で開催される「第7回世界公共安全協力フォーラム」について協議した。
<https://www.al-fajrquotidien.com/comores-chine-la-securite-publique-au-coeur-du-renforcement-de-la-cooperation-bilaterale/>
- 24日 (Al-Fajr) サンビ元大統領の主治医は、同氏の健康状態が悪化しているとして、国外で冠動脈造影検査を受けるための医療搬送を認めるよう、司法省及び検察当局に要請した。しかし、現時点で当局からの回答はない。
- 25日 (Al-Fajr) 財務・予算・銀行部門省は、行政幹部らを対象に、公的歳入の確保、公的債務の持続可能性および開発資金調達メカニズムに焦点を当てた5日間研修を開始した。参加者は他国の

具体的な事例から学び、「ブルーボンド」といった新たな資金調達手段について理解を深めた。この研修の終了後、コモロ新興計画（PCE） 2030 への資金供給を強化するため、国家資源動員戦略の策定が予定されている。

2 外政

- 3日（Al-Fajr） 第6回中国・アフリカ・マラリア撲滅シンポジウムが開催され、コモロ当局、医療関係者及び中国人専門家8人が、マラリアの予防、監視及び感染拡大への対応強化について協議した。今次会合を通じ、中国とコモロの保健・科学分野での協力強化が図られた。
- 7日（La Gazette） コモロ国際協力庁（ACCI）とJICAが主催して、コモロ初の「コモロ・日本協力の日」を開催。1980年の協力開始以来、研修で、保健・漁業・廃棄物・ブルーエコノミーなどの分野で、約300人を育成してきた。エル・マルーフ大学病院では「5S - KAIZEN」研修を開始したが、日 - コモロ - マダガスカルの三角協力の好例となっている。2027年以降も戦略対話を強化し、明確かつ現実的な優先課題を設定し、コモロ国民の利益を最大化する方針が確認された。
- 12日（ロシア大使館Facebook） ロシアはモロニへの大使館開設に向けた準備を進めており、2026年の外交関係樹立50周年を契機に、両国関係の強化を図っている。経済面では農業、漁業、エネルギー、観光、貿易を重点分野として、ロシアの技術・設備・経験の提供を検討。また、これまで1,000人以上のコモロ人がロシアで留学・研修を受けており、人材育成やロシア語教育、文化交流も強化している。10月にモスクワで開催予定の第3回ロシア・アフリカ首脳会議も見据え、今後、ロシアによるコモロおよびインド洋地域への関与が一層拡大する可能性がある。
<https://teams.public.onecdn.static.microsoft/evergreen-assets/safelinks/2/atp-safelinks.html>
- 13日（La Gazette） 7日から、コモロの視聴覚メディア関係者が、中国で開催されている視聴覚分野のデジタルトランスフォーメーションに関する21日間のセミナーに参加している。この機会を利用して、セミナーを通じて中国の経験やイノベーションについて学ぶ。
<https://www.lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/formation-en-chine-21-jours-dimmersion-en-chine-pour-des-professionnels-africains-19357.html>
- 25日（La Gazette） コモロ在住のマダガスカル人ディアスポラは、23日に首都モロニで集会を開き、コモロへのマダガスカル常設外交代表部の再設置を求めた。コモロに約2,000人いる同コミュニティにとって、大使館がないため各種行政手続きが複雑で費用もかさむ状況が主な理由。
- 28日（Al-Watan） フランスのルコルニュ首相が8月26日にマイヨット島を訪問し、移民ルート対策を条件とする開発援助方針を表明したことに対し、ムバエ外相が強く反発。同外相は、サイクロン「チド」被害からの復興を優先すべきとし、フランスの姿勢を「見下した態度」と批判。また国連決議に基づき、コモロ国民はマイヨット島に居住する権利を持つとして、追放政策を「違法」と断じた。
<https://alwatan.net/politique/propos-de-s%C3%A9bastien-lecornu-%C3%A0-mayotte-immergence-mohamed-d%C3%A9non%C3%A7e-une-politique-fran%C3%A7aise-%C3%A0-contre-courant.html>

3 経済

- **8日 (RFI)** コモロでは、新たな国内商取引法をめぐり議論が起きている。7月末に公布された同法は、食料雑貨店、行商、理容・美容、仕立てなどの身近な業種について、出生時からコモロ国籍を有する者に従事者を限定したため、外国人および帰化によってコモロ国籍を取得した者は、これらの職業に従事できなくなる。
<https://www.facebook.com/100064785098236/posts/1550671783768977/?rdid=yVAvtVy8m6LkelsY#>
- **17日 (La Gazette)** 15日、国営電力会社SONELECは、モヘリ島ムバガニの太陽光発電所で初の技術試験を実施した。一部に調整の必要が残るものの、同発電所は4時間50分にわたり島全体に電力を供給し、モヘリ島のエネルギー転換に向けた重要な進展となった。今後追加試験が実施される予定。
- **27日 (Al-Fajr)** コモロ島嶼間海上輸送開発計画 (PTMIC) の一環として、新たな旅客・貨物船「MASSIWA」が導入された。全長26メートルの同船は2027年から島嶼間の人員・物資輸送を担う予定。また、運輸相はモロニ、ムツァムドゥ及びボインゴマの3港を近代化する方針を発表した。

4 社会

- **8日 (マダガスカルLes Nouvelles)** 首都モロニでは水不足が慢性化し、15万人におよぶ住民の生活を脅かしている。老朽化したインフラや漏水、電力不足により水供給は数週間に1回程度に限られ、配水量の半分以上が途中で失われる状況にある。これにより民間業者による違法な水販売が横行し、高額な給水サービスへの依存を余儀なくされている。国民の45%が貧困線以下で暮らす中、水価格の高騰が住民の家計を深刻に圧迫。
- **17日 (La Gazette)** 2025年9月に終了した保健事業「COMPASS」により、コモロの基礎医療体制が大幅に改善された。グランドコモロ、モヘリ、アンジュアンの保健施設・地区医療施設の約90%が改修・機材整備の対象となり、医薬品も継続的に供給された。今後は、こうした成果をコモロ政府が持続的に維持できるかが課題となる。
- **25日 (La Gazette)** 19日、コモロのアメリカン・コーナーで地震学者マリアマ・マディ氏（当館注：日本の政策研究大学院大学 (GRIPS) とつくばの防災科学技術研究所 (NIED) の卒業生で、コモロJICA研修生同窓会の副会長も務める）がAIの急速な台頭を巡る講演を実施。偏見強化や剽窃、チャットボット乱用による認知低下などのリスクを指摘しつつ、教育・保健・防災での活用可能性を提示。未成年非行抑止とカルタラ火山監視のAI警報モデルを紹介し、若者に批判的思考と倫理的活用を訴えた。
- **27日 (Al-Fajr)** コモロは、国家緊急対応計画の一環として、サイクロン発生時の緊急対応体制を検証する訓練「NOURA」を実施した。訓練では、実務面での対応上の課題に加え、災害対応資金「REPAIR」の動員に関する問題点の把握を図った。
- **31日 (Al-Fajr)** コモロの6つの歴史的メディナ（イコニ、モロニ、イツァンドラ、ンツジニ、ムツァムドゥ、ドモニ）がユネスコ世界遺産に登録された。これらの都市はいずれも、珊瑚石造りの建築や、モスク、迷路のような路地を特徴とし、アフリカ・アラブ・ペルシャ・アジアの文明が交差したインド洋交易の歴史を体現している。

(了)